



テーマ：「平和教育の『見取り図』を描いてみる」

○参加について

<企画者> 村上 登司文、浅川 和也、野島 大輔

<参加申込> 現地開催およびオンライン開催 *参加無料 *使用言語：日本語

*オンライン参加の方は、2月9日（水）までに、次のフォームからお申し込みください。

会合前に ZOOM ミーティングの ID とパスコードを、入力して頂いたメールアドレス宛にお送りします。

(<https://ssl.form-mailer.jp/fms/6e79e445210113>) または右の二次元バーコードから。

ZOOM の操作につきましては、参加者各自にて、事前にご準備をお願い致します。

*現地参加の方も、予め期日までに、このフォームからのお申込をお願いします。

場所：京都教育大学 A棟（A1教室）

会場へのアクセスの URL はこちらです。(<https://www.kyokyo-u.ac.jp/access/>)



○日程 **2022年2月11日（金・祝）13:00～16:30 【12:30 現地開場・13:00 オンライン配信開始】**

13:00～ 基調提案：村上 登司文 「平和教育の様々な研究アプローチを整理する」

13:40-13:55 基調提案の振り返り（ブレイクアウトルーム/相互の簡単な自己紹介も含む）

14:00～ 報告1：野島 大輔「平和教育学にとっての『基礎』となる研究をどう共有するか」

14:40-14:55 報告1の振り返り（ブレイクアウトルーム）

15:00～ 報告2：浅川 和也「平和教育と関連する諸教育分野の現状と課題（ESD と SDGs 等）」

15:40-15:55 報告2の振り返り（ブレイクアウトルーム）

16:00～ 本日のフォーラムの振り返り（参加者全員）、今後の取り組み など

16:30 フォーラム終了

（16:30-17:00 任意参加によるチャット、情報交換など）

○平和教育学フォーラムの設立主旨

日本の平和教育は第二次世界大戦後から今日まで広く行われてきました。しかし、個別の平和教育論や平和教育実践は多くあっても、それらのアカデミックな整理は充分とはいえません。平和教育の発展のためには、平和教育をばらばらな理論と実践に留めておくのではなく、「平和教育学」と呼べる学問的領域を拓く必要があります。

「平和教育学」では、平和教育の実践と理論について研究し、平和教育実践を理論面から支えるための学問的知見を体系化することを目的としています。アカデミックな立場から、平和教育の体系化を進め、「平和教育学」として発展することが望まれています。

○今回テーマの趣旨

コロナ禍の世界的な拡がりの中、国際的な平和教育者約 300 名が、オンラインで開催された“Peace Education in Pandemic”（2021.4.13）を通じて“Solidarity（連帯・団結）”の重要性を共有しました。そして今、世界大の平和教育の「見取り図」の作成に踏み込んでいます（“Mapping Peace Education”）。

日本国内の平和教育の「見取り図」は作成できるでしょうか。実践者との対話を重ね、研究者の連帯を取り戻す必要があります。同時に、平和教育の研究に学問としての系統性を持たせる課題も残っています。

幅広い参加者の皆さんとともに、平和教育の研究について、現状と課題の共有を目指しましょう。参加者が、できるだけ意見を交流し、平和教育の内容や方法にアカデミックに接近ができることをめざしています。

主催：平和教育学研究会

<お問い合わせ先> peaceeducationforum@gmail.com

協力：平和教育地球キャンペーン（GCPEJ）

<https://gcpej.jimdofree.com/cipe/kansai/10/>